

1. 事業説明シート（1）

（区分）**国補**・県単

<b>事業名</b>	中山間地域総合整備事業		<b>事業箇所</b>	西八代郡市川三郷町・中央市	<b>地区名</b>	三珠豊富	<b>事業主体</b>	山 梨 県
<b>(1)事業着手年度</b>	H14年度	<b>(2)事業期間</b>	H14年度～H26年度	<b>(3)完了後経過年数</b>	5年	<b>(4)総事業費</b>	4,199百万円	
<b>(5)事業着手時点の課題・背景</b>					<b>(8)事業位置図等</b>			
<p>本地区は山梨県のほぼ中央、甲府盆地の南端に位置し、南西に山林が広がる中山間地域である。農業生産基盤の整備の遅れが、農業の効率性や労力の軽減などの大きな障害となっており、用排水路や農道、ほ場整備等の整備が求められていた。さらに、鳥獣被害も深刻で、営農意欲の高い農家が多い地区でありながら、安定的な農業経営に不利な環境となっていた。</p> <p>こうした状況を背景に、農業振興策を推進する上で必要となる生産基盤を整備し、農業の効率化や生産性の向上を図るとともに生活環境整備により、魅力ある農村生活環境を確保することで、地域の活性化や住みやすい地域づくりを行うこととした。</p>								
<b>(6)事業着手時点で想定した整備目標・効果</b>								
<p>（事前評価未実施）</p> <p><input type="checkbox"/> <b>主要目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中山間地域等の農村生活・生産機能の向上</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> <b>副次目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上</li> <li>農業用排水能力の向上</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> <b>副次効果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農地の保全</li> </ul>								
<b>(7)整備内容（目標達成の方法）</b>								
用排水路	（7路線）	L=3,116m	交流施設基盤（1箇所）	A=14,700m <sup>2</sup>				
農道	（14路線）	L=5,513m	情報基盤施設（1箇所）	N=一式				
ほ場整備	（7路線）	A=50.3ha	施設間連絡道（3路線）	L=1,564m				
農業集落排水路	（1路線）	L=102m	鳥獣害防止施設（9箇所）	L=7,300m				
防火水槽	（18箇所）	N=18基						
用地整備	（3箇所）	A=8,300m <sup>2</sup>						
農村公園	（2箇所）	A=15,000m <sup>2</sup>						
活性化施設	（1箇所）	A=640m <sup>2</sup>						

2. 評価シート (1)

(1) 事業貢献度

〈 (良) ・ 不良 〉

(理由)

用排水路・農道が整備されたことにより、農作物の品質向上や運搬時間が短縮されるとともに施設管理が容易となったため、農業経営の改善が図られた。

① 主要目標 中山間地域等の農村生活・生産機能の向上

指 標	着手時点数値等	評価時点数値
面積当たり農業所得の増加額	1,379千円/ha	1,499千円/ha
施設当たり生活環境施設受益者数	1,651人/カ所	2,451人/カ所
面積当たり農村公園受益者数	861人/千㎡	927人/千㎡
交流施設当たり利用者数	29人/日/施設	66人/日/施設

□ 評価時点の数値に対する評価

- ・ 農業所得の増加額が、評価基準値1,322千円/haを上回っている。
- ・ 生活環境施設受益者数が、評価基準値245人/カ所を上回っている。
- ・ 農村公園受益者数が、基準値762人/千㎡を上回っている。
- ・ 交流施設当たり利用者数が、評価基準値65人/日/施設を上回っている。

② 副次目標 集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上  
農業用排水能力の向上

指 標	着手時点数値等	評価時点数値
全幅員4.0m以上道路延長率	0%	100% ※1
施設老朽度 (残耐用年数)	1.00	0.33 ※2
用排水能力向上率	1.00	2.02 ※3

□ 評価時点の数値に対する評価

- ・ 事業の完成により5.5kmが幅員4m以上に改良され、幅員4m以上道路延長率が100%となった。  
※1 全幅員4.0m以上道路延長率 = 対象路線の全幅員4.0m以上の道路延長(5.5km) / 対象路線の全体延長(5.5km)
- ・ 施設整備により耐用年数が向上しており、老朽度は改善されている。  
※2 施設老朽度 = 施設の耐用年数(30年) ÷ 完成時からの経過年数(10年)
- ・ 用排水能力向上率が基準値1.00を満たしている。  
※3 用排水能力向上率 = 計画用排水能力(5.06m<sup>3</sup>/s) / 既存用排水能力(2.50m<sup>3</sup>/s)

③ 副次効果

項 目	内 容
農地の保全	排水路施設の整備により、表土の流出が防止、また、鳥獣害防止施設の整備により、農地が保全されている。

④ その他事業効果の発現状況

- ・ 鳥獣害防止施設の設置により、獣(イノシシ・シカ等)の出没もなくなり、安心できる生活環境が整えられた。

(2) 費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化

〈 (有) ・ 無 〉

項 目	着手時点	再評価時点	事後評価時点	
総事業費	3,705百万円	3,651百万円	4,199百万円	
工 期	H14~H20	H14~H21	H14~H26	
評価基準年	H13	H19	R1	
経済効率性	費用	1,852百万円	2,165百万円	2,758百万円
	建設費	1,852百万円	2,165百万円	2,758百万円
	便益	2,236百万円	2,884百万円	3,649百万円
	作物生産効果	901百万円	834百万円	1,103百万円
	維持管理節減効果	166百万円	390百万円	138百万円
	走行経費節減効果	790百万円	770百万円	1,142百万円
	その他※	379百万円	890百万円	1,266百万円
B/C	1.2	1.3	1.3	

※経済効果は、生産基盤整備を対象に算出している。

※その他：営農経費節減効果・品質向上効果・更新効果

(要因変化の分析)

- ・ 総事業費：ほ場整備において地域の要望が高まり、計画地域の拡大による事業費の増。
- ・ 工 期：事業量の増加による工期の延期

(3) 事業実施による環境の変化

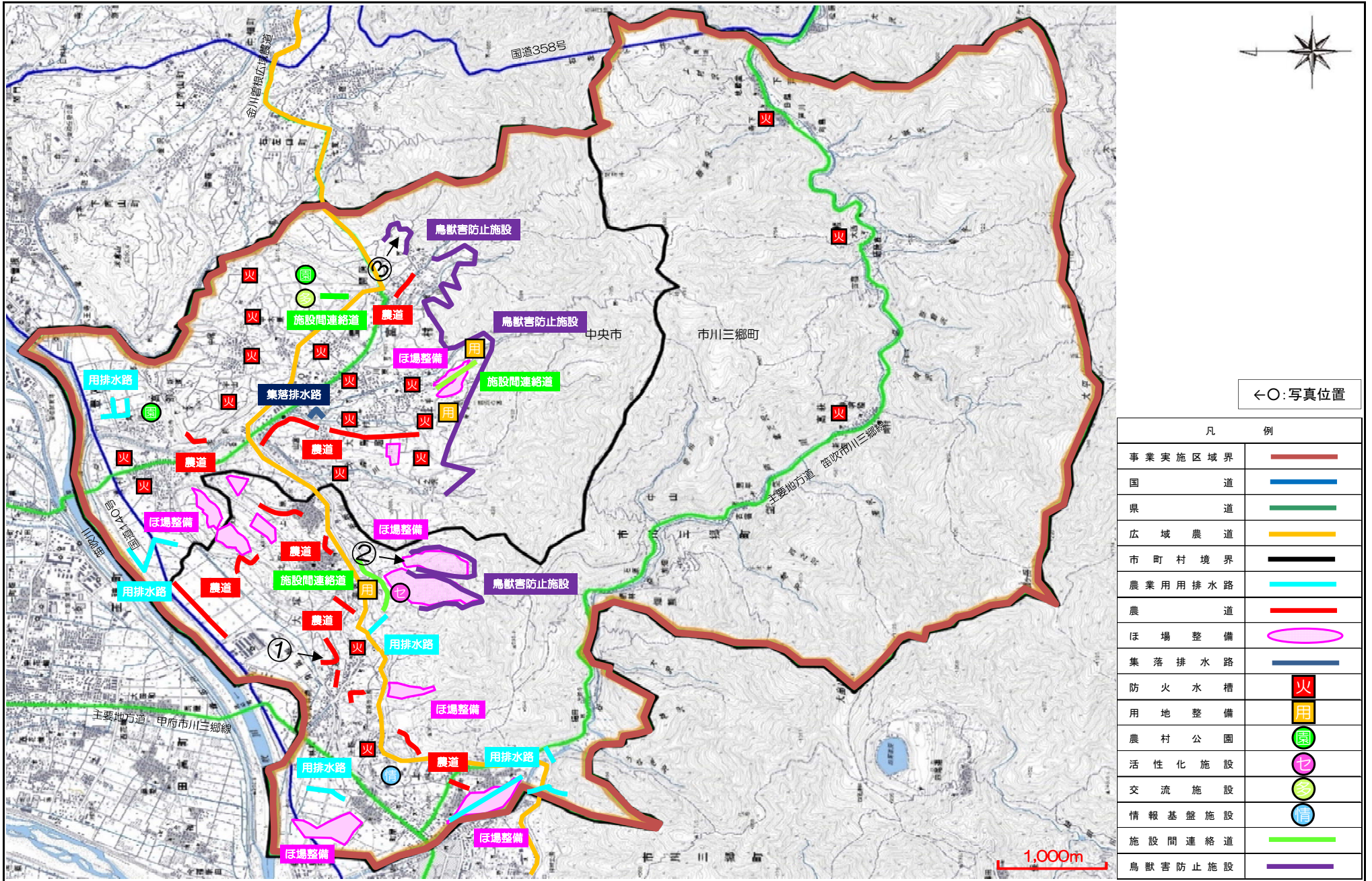
① 自然環境への影響

- ・ 基盤整備を進めたことで、耕作放棄地の解消・発生防止につながり、地域良好な農村景観が保たれている。

2. 評価シート（2）

<p>② 生活・居住環境等への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農村公園の整備により地域のコミュニケーションの場として利用され、周辺地域を含めた拠点として位置づけられている。</li> </ul> <p>③ 環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 &lt; 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 &gt;</p>
<p>(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響</p>	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul> <p>(具体的反映策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul>
<p>① 社会経済状況の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul> <p>② 関連計画・関連事業の状況の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul> <p>③ 事業環境等の変化</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 &lt; 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 &gt;</p>
<p>(5) 今後の事後評価の必要性 &lt; 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 &gt;</p>	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul> <p>(具体的反映策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul>
<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当該事業で農道・用排水路・ほ場整備設を整備したことにより、営農経費節減により農業所得が増加した。さらに、直売所を活用することにより販路の拡大が図られている。</li> <li>また、鳥獣害防止施設の設置により、獣（イノシシ・シカ等）の出没もなくなり、安心できる営農環境が整えられるなど、十分な効果が発現されているため、今後の事後評価は必要ないと思われる。</li> </ul> <p>・時期： 年度</p> <p>・方法：</p>	<p style="text-align: right;">○</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 &lt; 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 &gt;</p>	<p>・なし</p>
<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul> <p>(具体的改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul> <p>(既の実施した改善策の内容と効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なし</li> </ul>	

### 3. 添付資料シート(1)



### 3. 添付資料シート(2)

着工前



①農道



完成



農道整備により、農耕車が容易に進入できると共に、すれ違いが可能となるなど、安全性と農作業の利便性が向上している。

②ほ場整備



ほ場整備により、農地の集積化などが行われ、作業効率などが向上した農地が活用されている。

③鳥獣害防止施設



鳥獣害防止施設の整備により、イノシシやシカ等の獣による農作物被害が大幅に軽減され、営農意欲が向上している。

### 3. 添付資料シート (3)

#### 事業による効果



農村公園・交流施設が整備されたことにより、生涯スポーツを通じ、地域住民相互の親睦を深める憩いの場所となっている。



道の駅 とよとみ  
直売所



道の駅 とよとみ  
スイートコーン収穫祭



みたまの湯  
大塚にんじん祭り

直売所・イベントなどに県内外から多くの人々が訪れ、事業の実施により安定的な生産が可能となった農作物の販路拡大などが図られている。